

4年1組「なみだとえがおの『なでしこジャパン』」 内容項目 - 友情, 信頼

【あらすじ】

ロンドンオリンピックでの女子サッカー決勝戦。「なでしこジャパン」は敗れはしたものの、仲間を信じて全力でプレーし、助け合って戦ったことで、真の友情の美しさを学ぶ。

なでしこの全力プレーを視聴中!



【授業から】

なでしこジャパンが2011年 FIFA 女子ワールドカップで優勝したことを知らない児童が多かったので、決勝戦の様子(日本対アメリカ)を簡単にビデオで視聴しました。翌年のロンドンオリンピックでも、勝って当たり前という期待がかけられていたのに、1点差で負けてしまったことで、選手は泣き崩れ、キャプテンの宮間選手はグラウンドに倒れ込んでしまいます。しかし30分後の表彰式には、なでしこの仲間がさわやかな笑顔で、前の人の両肩に手を乗せて一列になって登場したのです。このわずかな時間に選手を笑顔に変えたものは何だろう、と考えることで、仲間の大切さや信頼関係について考えることができました。授業の最後には、「本当の仲間とはどんなものだと思うか」について自分の考えを付箋に書いた後、それをもとにグループで意見交流をしました。いろいろな考えに触れ、よりよい友情関係について考えを広げたり深めたりすることができました。

【本当の仲間とは?】

- ・つらい時こそ、みんなで助け合える。
- ・だれよりも信らいてき、ほこりに思える存在。
- ・気持ちが分かり合えて、はげましてくれる存在。
- ・こまった時にたよれる。何でも相談できる。
- ・自分のことより、相手のことを思ってくれる。



自分の考えを付箋に意見交流をしました

4年2組「へらぶなつり」 内容項目 - 相互理解, 寛容

【あらすじ】

へらぶなつりで優勝するために、主人公の明は父の大事にしているへらうきを持ち出すと、友達の健二がなくなってしまう。一生懸命謝る健二を明は許さなかった。しかし、明が父に正直に謝ったところ、怒ることなく許してくれた。明は、自分の部屋に戻って、今日の出来事を思い返した。そして、自分と健二を重ね合わせた。

【授業から】

友だちの失敗を許せなかったときの気持ちと、自分の失敗を許してもらったときの気持ちを比べることを通して、ねらいに迫りました。父親の宝物である「へらうき」を勝手に持ち出した明だったが、思わぬアクシデントにより、「へらうき」を返せなくなった場面を想像させる問いかけを行いました。そして、必死に謝る健二を許すことができなかった明の気持ちについて考えました。自分の失敗を父に許してもらったことで友達を許せなかった自分の心の狭さに気づく明の気持ちの変化を大切に捉えながら、子どもたちは自己を見つめることができました。学校生活で起きたトラブルに対して、相手をすぐ責めるのではなく、一度冷静になって相手の気持ちを考え、適切な行動をとるよう再確認することができました。

【学習感想】

- ・同じようなことがあったら正直に言い、友達にも謝りたいです。
- ・ぼくも友達を怒らせてしまったことがあります。そのとき、素直に謝ったら許してくれました。明も隠さず、謝ったから許してもらえたのだと思います。
- ・明さんが健二さんに怒る気持ちがわかります。でも、そういうときは、素直に謝って友達と仲直りしたいと思いました。



それぞれの登場人物の立場で考えました